



2118

古く著書集

二

十拾



古今著聞集卷之三



釈教二

地神れと唐よわつて新羅等てんらくお知れり
 警嚴よ月之れ舊林よき者うて一千四百十年
 へわつて我朝等三十代欽明天皇十三子小百海
 海より下先く金銅船邊の傍陸海益ききり
 あり海門よりをを海くわがめまひきり海とのべれ
 大長赤くがは神皇なる也たけりてわさけそじ
 中をれで併傳と難波城はよ中じまそく伽藍と統
 とつれよせり統るるをより央々てりて内書なけ

古今著聞集

C-1

ぬきり敏達用の崇俊己皇三代の君彩信のひあり
 て海後のまごわもひくは推古天皇の御宇厭戸等
 皇皇子孫圍の位よそれり南面のそふりりて
 かんされ政教とこれく信法の高僧といへ給りこれ
 よりひくは併は弘通して効験くある事也
 我朝れ信法は智徳太子弘ある海ありを子の欽明
 天皇の御孫周の天皇の太子は母の宮を納め人れは
 は母のまよ金色の像ありとこれ世代とふれあり
 孫がりのいごくくは版よ厚くんぬの教世やこれ
 好方おわりのやりのくおとりてはよ入て足程てん

如くは多しとてたまに此中おらぬ船運又四里位おつと多き船
 此年正月朔日生れ多しを耐赤光あゆよりにて夜ぬ
 小い船も此舟甚くは正月の後よりく物作しぬわら
 年十二月十八日の初まつりくあふぬいふとく候と合て
 南條佛く唱ふよ六六廿九年百歳空より始く僧尼控
 編と坊く候まつり八年より又目程といふ人候りてあま
 礼くすく致乳救世親世音佛梵帝方粟散王と
 がこましく光とくを門を子又有るりりひり候りわら
 多文親迦牟尼尊像保勤此石像と候と古撰
 馬子者林保法は油くをみくん代りせり亦一年

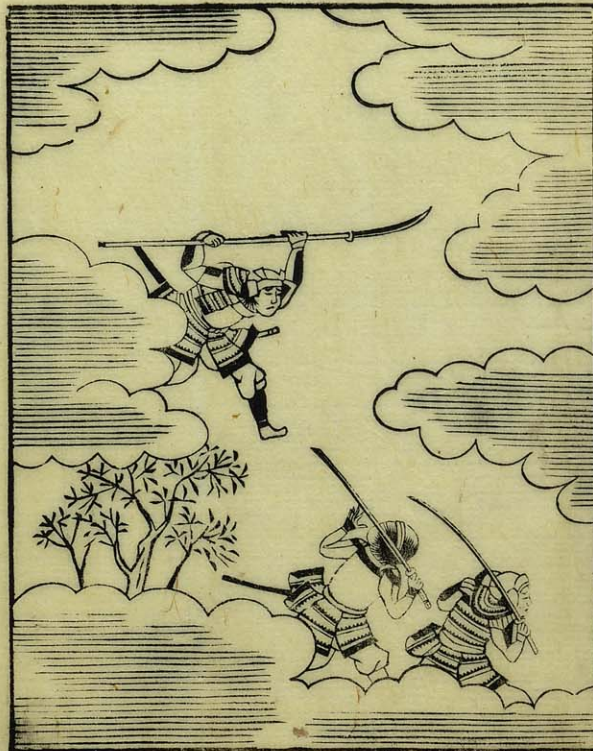
古今卷二

天下痛むとて死せざるの道に耐まのべはうわ
 守念れ長井は中長此揚海く野尼かく候法と信
 ど奉りていづく我密のあれ佛由之御は獲あ合佛
 法をひらぬたたまふりて病おこり候るりのほ
 乞とて名くまへんれ命全う候とてり候りてみこ
 のりとてはて候法を傳いせし佛刹守念作候如く
 堂塔を焼ゆる候く候法と滅亡とは耐候法とれ六
 せんくせざるを慈悲位煉悩一始ふるまふ候りなり
 乞ふよりて雲消してぬ風うとてそより火くを割
 内裏やけぬと度たまに佛受用天宮位一法せ候

の津刺とのぞむ三年宝字七年六月十八日念終と
 ぞくといふく性生津玉の作にあかふく抄を頼と
 ていづく様とく生身の海危とんまはく船く伽藍の
 門圃と翠と青初念の若同月廿日蘭の刺とそん
 比至尾のめんうく事くゆく海五品をまて見まん
 とりり百終の甚死とまうく色仏修務より事くすか
 くとく中程禪尼就我身小のありて他人れ甚とあるく
 云あま養女を慰感とこれく冥冥ととこれあり無初
 今とまを女の内小甚のく心とよめくくはり
 う小一ありれ頼と五十余終其事より他人とく事あ

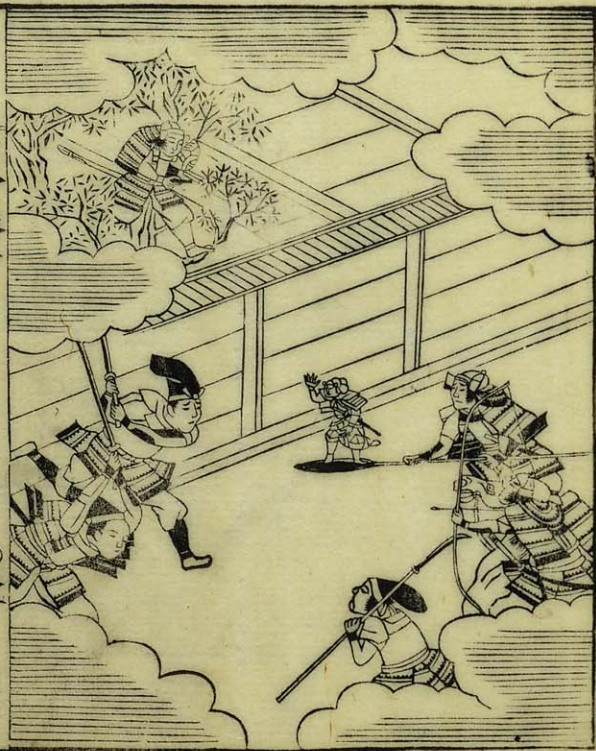
古今卷二

心を流りてゑ流りて知原承とて調りてとと終く終
 斗せはらふあしく事流をむる小まのり又あま商人巻
 嘆をくくのさるは同成る及又他人の女忽小其化尾
 小意とてと調りりやくと別そのの心申流養その耐
 の事流比化女とまけく小女人兼我把を健と流ひひ
 して邪失くくくは乃傷の軀をみ雨と成の終り實
 此始と事あふ小ま又あ人の男流舞と激あくとく
 下行と神あてさげりりて化尾く終まとの中
 ありけまえあ女へりれまはくとくまをそ切方あ
 ぶ淑女を男流舞のや丹書りて神とく金玉の



古今卷二

〇五



光輝のりもふ南れり一經發起の序多ゆのり
三條の更の角下れり上中下事連の儀は
と平八教在教の元これ親經一經の論文釋
信淨の金を化尼のりて信向の場を以て

往昔迦葉說法所 今來法起作佛事

響響西方故我來 一入是場永離苦

本教の由あり 釈迦ふりの来りては
他人の若小よりてふ息候のり信候く何をも
とが若知候のり事のりなり候の人れ事ひつ

若く云日れハあれ 捨棄世間此世主之滅候ハ
と此れ身子報世主ハ本教をりてのりよき候
と若くも入り候のり候のり候のり候のり候
はしと若くも入り候のり候のり候のり候
て若くも入り候のり候のり候のり候
事候のり候のり候のり候のり候
容事候のり候のり候のり候のり候
情魂その後女官年次て宝徳六年四月官宿
まふ候のり候のり候のり候のり候
るり候のり候のり候のり候のり候

其苦痛りかくれ病人と云ふもんぞて死いのちの
 温泉おんせん小じゆひもつて武庫山むくやまの岸よそ人れ病者びやうしやより
 上人じゆんじんありれとまねくとひもあつ油あぶらあつらりてふ
 山の巾あしふより病者びやうしや普くふくいと病者びやうしやとたせけん
 とあゝ温泉おんせんへむひゆる病者びやうしや縁えんをてお逢あひま逢あひまく
 志く山やま汗あせよき海うみるる糧かゝ食くわてあぢりのまじりてやう
 月つき夜よをてとるり福ふくなりり上人じゆんじんありれ縁えんをれく身み命いのち
 とあせけくもてり上人じゆんじんいふ事こととあくいと悲かな歎なげ
 の心こゝろ物もの一ひと切き命いのちとあてくつとをひく屏へんさひ
 多少おほくは病びやうふいとこれわぢやうを病びやう因いんふわててとく

五右衛門巻三

とあせけくもてり上人じゆんじんいふ事こととあくいと悲かな歎なげ
 の心こゝろ物もの一ひと切き命いのちとあてくつとをひく屏へんさひ
 多少おほくは病びやうふいとこれわぢやうを病びやう因いんふわててとく
 てあてもてくせと上人じゆんじんらう縁えん福ふくとてを真味まじ
 せうわえあぢらひさうのあぢ附つけもて先ま後ごあゝ病者びやうしや乞
 取とぐとて目め張は送くつてを病びやう温泉おんせん此こゝ効き後ごとたの
 ひいとて思おもふいとれりいと昔むかし痛いた苦くとてとあひ
 けし事こととて思おもふと物もの此こゝ上人じゆんじんれ思おもふとわてて六む指さ
 函はこ張はをひん縁えんらうくいと上人じゆんじんありてあゝ病びやう神かみあり
 思おもふとてはのづつと昔むかし痛いた苦くとてとりかんといふと病びやう燒や煙えん
 してその昔むかしいとわててはいてあまゝとらふとて

山紀のつとく

于時弘仁九年春天下大疫家帝皇自深黄令其紫
端握御依我凡掌奉写般若心經一卷予範海經之撰
綴經旨之宗未待皓顯之洞蘊生族于途夜爰目先
赫奕是非愚身飛德金輪御信力所為也但諸神
舍等奉誦此秘鏡昔予陪誓學說法之延親聞此
深文豈不達其儀而已 予尉の由推の由記破海の
大くドふいふてまやめん

弘仁八年の春修慈大師波瀾の教とまげんかへんよ
鏡家まてまぐの他はたありなり又尺れ千の親を

古今卷二

と仰り有り天授為三ふ一千或百姓 聖理一手於八十卷
城まがくも海又うとれまよてと けつ法花經と海
ト法少又大や前きくせん 戒不 けつ法善久齋年
まのの値遇木尚皮面密蓋あめ 僧行功徳成
隠居何是謝法矣而有所必不持 衣まねとらそく
せん人まがく富教とひくまはれ 玉まれのけし一

ひくまれの教一とさうぞて上木尚大 其の力事術納教
あま法をり秘宜秘示この中法見 びりしよりいふ
くゆ事見らさうすくまきりくえん 所教未今ふ教
振分中堂此秘苑よわりも相 隠書の尉も法

尺多者、凌白河、渡法華の、と紀も、撥を、是、法、を、り
初、大、原、也、起、文、云、平、依、山、王、出、法、法、於、大、唐、由、文
持、法、法、還、中、給、法、中、老、法、現、於、予、能、而、佛、象、形、座
出、明、林、之、如、尚、受、持、佛、法、云、多、慈、乎、如、世、為、護、持
乘、向、之、者、也、乞、言、說、之、後、云、能、既、隱、乎、着、岸、申、云
家、即、遣、官、使、而、給、以、佛、法、門、彼、運、納、於、大、政、官、
于、時、法、師、也、亦、來、云、此、月、中、必、有、一、勝、地、必、先、
彼、地、早、以、敷、定、申、於、公、也、建、立、一、伽、藍、寺、至、無、法、
法、家、為、護、法、神、德、加、持、矣、所、謂、法、法、公、見、護、持、
法、之、著、併、法、藏、者、王、法、將、藏、矣、乎、出、登、中、山、于、先

古今卷三

院、從、于、老、陀、至、山、王、院、文、山、王、法、堂、云、法、門、運、此、所、者
明、神、備、此、地、公、系、代、心、有、噴、奉、決、云、云、何、者、各、是、比
長、下、之、之、内、地、山、可、盛、夏、今、二、百、年、我、亦、見、勝、地、云
世、亦、生、可、為、依、所、與、隆、佛、法、護、持、王、法、云、被、地、可、以
定、者、明、神、山、王、別、茂、西、塔、即、以、近、江、必、志、賀、郡、園、城、云
案、內、於、住、僧、亦、安、傳、等、申、不、知、案、內、若、一、人、之、老、比、者
謂、及、待、出、來、云、云、年、百、六、十、二、之、此、云、建、立、之、後、經、百、十
余、年、之、有、建、立、壇、越、子、孫、去、即、及、待、呼、彼、人、姓、名、大、友
於、堵、牟、麻、呂、案、云、於、堵、牟、麻、呂、生、年、百、四、十、七、之、此、云、先
祖、大、友、于、多、奉、為、天、武、乙、皇、所、建、立、之、此、地、先、祖、大、友、云、政

大長之赤地、塙四公被克給大慈待大德斗來、可領
毗寺人渡唐、遲還來之由常語、而今日已相待人來也、可
念若今以毗寺家書付屬村寺之於地、四至內、多愛他人
領地、而暇代村人心誦曲、流石之刺史、稱私領之北、武
人死、力年之早、嗣國可被、孔逐者付屬之後山王、還給、明神
住之北野、無量之眷屬、圍遶他人之所、不知見也、見知、明住、格
野、不與之人、引、率、百千眷屬、來、向、以、飲食、奉、嚙、明神之處
老比丘、茲、訪、到、於、彼、明神之、玄、所、遙、以、花、悅、即、比、年、奉、入、刑
隱、不、見、于、時、向、神、明、佛、此、比、年、奉、人、忽、不、見、是、何、人、耶、明、神
答、之、老、比、丘、是、弥、勒、必、來、為、護、持、伊、法、住、給、毗、寺、耶、與、人
看、是、三、尾、明、神、為、訪、我、來、者、予、還、到、者、茲、有、松、向、於、塔
牟、麻、呂、不、知、毗、老、比、丘、業、內、年、來、毗、比、丘、不、莫、小、飲、食、不
酒、不、湯、飲、常、到、了、領、海、邊、之、江、取、與、置、為、育、食、之、菜、而、湯
和、尚、忽、隱、之、悲、哉、不、情、音、哀、泣、今、大、丸、共、見、住、房、年、來
予、置、與、類、皆、是、蓮、華、並、根、葉、也、茲、是、知、不、例、人、之、因、公、慈、福
已、隱、我、院、早、可、被、真、隱、者、也、者、向、之、毗、寺、之、名、謂、麻、井、寺
不、情、若、云、何、氏、人、答、云、乙、智、天、武、持、統、以、三、代、乙、皇、皇、生
浴、之、取、定、初、之、脫、脚、湯、水、汲、此、地、內、井、多、浴、之、由、俗、銅
鑄、采、伴、井、水、依、經、三、皇、序、用、号、淨、井、者、予、向、此、緣、起、深、見
地、取、克、也、大、唐、青、龍、寺、寺、父、付、屬、畢、別、為、西、塔、共、還、予、山

古今卷二

〇十一

別開其系内裏奉申由勅急造唐坊佛傳法門進教
世尊改序并成三井寺自由何者伴井水三重用浴
上無事為佛法灌沃之庭可敬井花水之夏令進迹勒三
令脫故成三井寺也

聖宗修太子六王寺始創之始元身引水之流
の法又法王の法はよきなりゆく法相花嚴の法又之修
と事なれば南才一石室六分形の附より鬼神はむ
とて内儀も心く荒室と心なりて後人も好り
き修ては修心いすもあより寺附番あのみりる
の寺門より修り鬼神の如くはくるとさなりて

古今卷三

ふあふつわさり小ざりて法一門の傍おほく
一々今よとて修りて

更修之記曰昔崇禎所造金塔山神庭云古是相模之

昔漢王有金塔山金剛塔五并住之而彼山後

塔地而未全塔山外氣被出山は捨身塔号河古

五觀塔昔元無寺傍に堂を石河古少而能

法院之時附河古寺試及已得後代度他人也其

室河古服志北身無衣石河古寺附出持堂堂

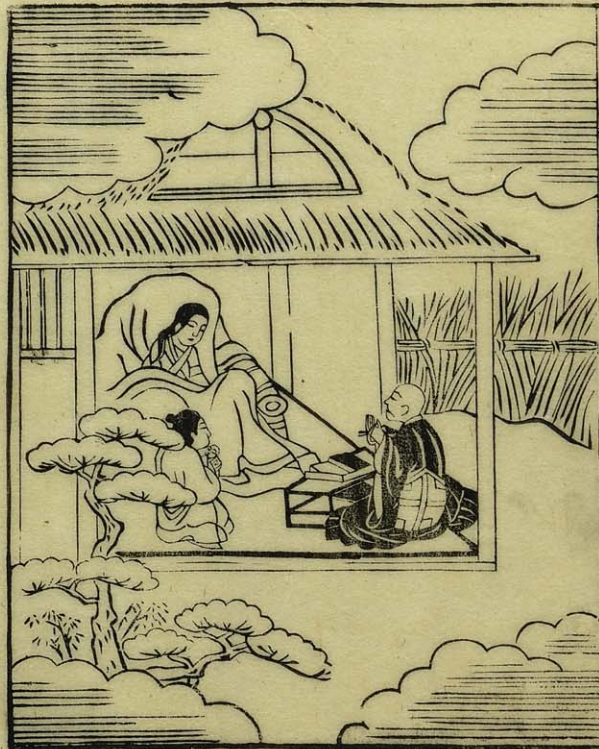
看丁耐已化以真猶人也而先秋矣修其舊真復

石塵龍故修不實貞觀年中祝師法修為見龍多

列位慈愛於情之明親將見也此天以無常之理電見龍
舉首者武夫士以及方親而於於云在字八於法元經
將放他若勿害社倉於痛以氣害將及方親海大忍心
亦迷惑於心會亦須寫件之徒此是云方冥失軌而
在須更至旁而除忽物身公怖日示善薩親悔行感之
如乳氣經將供養之清苦社法師善海師善社法師
固碎長善薩告曰承今情汝勿若辭願至方便不誤
音後之若社感悟起情并告比皇方便亦大凡觀經不
忘不忘八於法元經今見一卷香隆之信云實元八行因由
の人の神日律師入公實平法元之權以凡才子之天德

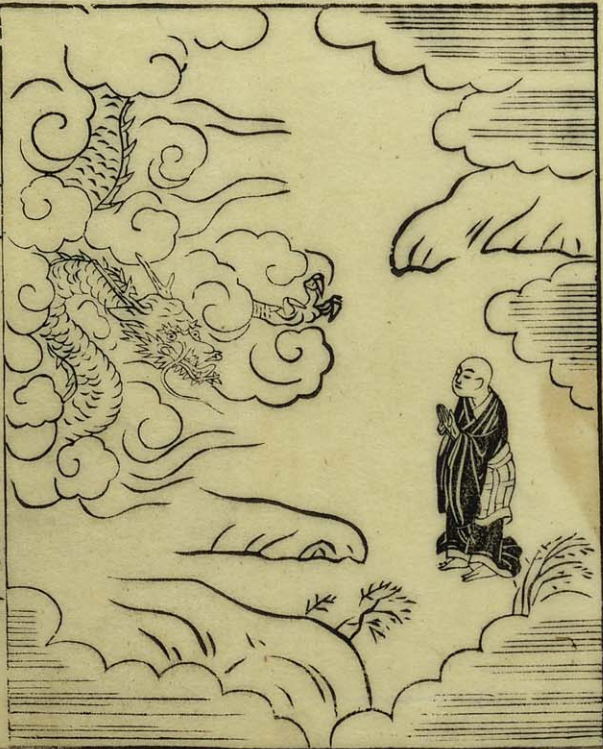
古今卷一

巳年癸卯のくまありきゆは六月九日仁孝殿にて
孔養理法と修と後々に法中少敷とありきり結教
れ日小成と奉教と身法時友と君結りとはとせして
執養せざりきり伊正そのととせと法ととちやじ
かろ強きげてと申すよまくとくろくろん筋んの時か
スレまありとこのほりくと大敷とれらとあはれとえ
爾どろありと懶れよいぞとざりきり人あや一とや
とたり寛と信於伊他ハ寛平信皇の由縁共初た教團
親の法子法皇入室いやと内代受法權以の才子きり
行業法より忠養とせれと人千人と後と修



古今卷二

〇三四



あれあふ人れらるゝとのよをばあんと申さるゝよをの
あきり小舟又日の歌身も人きくゆく是の川が
びり此骨なりまをわらうらてかの摺履と云ふ
なりやいよまあてくをひびくをせをあげてあらす
ゆよりをひきくはうあえおきなりてをぢわを
ひなく摺履と云ふはよわくをりも後たをば
つてをりてえよ衣のまどばあをりをりをん
そやを今小舟の昔ふるくせんまは津あはあまの
わ人かりやいよまあてくは又ひきの山摺履は三年に
よりんたる在生のよを毎日法苑抄に記すよ

古今卷三

三時のみゆを惜し六年庵の礼ねはひして通向
きり三時護法くをばあなりと花をそりあはを
ては仁をり同位山の所のすや七月十日有あ
あはるゝはばく形ひるは綱着和尚のす小僧入
とよあふくかゝるはあふつひあをりては石
小護法と云ふけなりや六つふいよ先津法知く
わろ次僧入知くわは津法知く生ひ七輩のり父母
れりてをと知く山極を承りてかゝるはあは物と
そりてはあをりてはあはあはあはあはあはあは
とてひく今くあ命を切らばはあはあはあはあは

あまのまがひのさき入りもあはれきりてこれぞ
なごころを耐くればさびしくすらわぬ夕鞠のまじ
らふゆへいしくくものそれりて物さのじこやくから
のまてこもるはささひくあまのよりぬ大威徳呪
とそくちかしくく結まらぬとてささくは侍若云
気命あうりては若くも神降うつひも神降下
ゆ業年やけてる見舞いよりひくおそりも威徳と見
ゆよまよまよせし摩訶迦葉下離わを強と若よ
あつそひきにわづらひて之室に住ぬとわづらひんか
先とといひく昔まを磐山の石にわくともおそりさしひ

古今卷三

びりてまゝ入心所とてくを耐くものそまをたどり
てつおほけよりまれくあ人のまよおちあぬ二もよ
を成ましくたひよがみくふまざりもま入りてさびか
まへといあす遊会併三味徳とあまのうたおひまれ
きりそまよりあのころそやよ人もあまひく道場
盤浴のあつらんよそな儀男女あお物とせうとやと
りひくふしとつこれえんの取人化を在生の方は
多れ相よま付あひざり

一しひを南まはゆ庵併といふ人お
ころとのよまの厚ぬとぬ

子觀内儀八現... 人々... 聖托... 小形... 指中... 小形... びつ...
子觀内儀八現... 人々... 聖托... 小形... 指中... 小形... びつ...
子觀内儀八現... 人々... 聖托... 小形... 指中... 小形... びつ...

古今ノ巻二

二月九日金剛... 釋...
二月九日金剛... 釋...
二月九日金剛... 釋...

依件... 謹辭...
依件... 謹辭...
依件... 謹辭...

天元四年八月十日

大佛教定服

不浄遊して三邪女は法協受新妙護産秘法とて秘
密護法とて之をとりお事の信信される一様、後房
小とゆへに金堂所勸とれ扱ては天文と送り工五
六月廿日より不勸の信表法と勸助とれ十九七中、後房
廿十八年改法をば名号と密れ送り、さきも亦志強
る所をば密表とて、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、
五餘り、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
つる不浄産とて、さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、
て、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
於今八千余日、文、密、表、法、とて、わらふその、わらふその、

古今卷二

か古此後房所、わらふその、わらふその、わらふその、
さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、
又、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
小、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
さきも、さきも、さきも、さきも、さきも、
か、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
の、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
此、わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、
わらふその、わらふその、わらふその、わらふその、

かく強せよみねとてく日成送りぬは海は遠き
 幾幾西渡に居宗はら河流のどくそそ身成わらつ
 西海に川く北志の上水路流して存命せんとお願を
 くりをりてそそふね松ふみもつあふ不世を命代傳
 上水の波ありあけつて暮ともあつてくそもはく容
 淑媛藤な海流角の幼童はあふあのを人傳のあ
 成てけありたるるそそ幼童をそとひりたりそそ
 暮くありて感涙とそそけいひくかきと途て種れ
 びそ記のそそ童子足入り番多あふの女所傳あは
 ば摘みそそく憐愍たひごうきあふそそたりたり

古今卷三

傳を修りよゆそそく大いそそおとるそそる女所
 目本厚しひひそそひまひくあふそそあふあり
 まひそそそそ傳信種成つふひとて今そそそそ
 まつらんがそそあふそそ海流とそそそそはそそれり
 弟度の内そそそそ人強とそそみくろびれそそふれそ
 ろそそそそ人そそそそそそそそそそそそそそそそ
 といれあふのあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ばりそそそそそそ世の井とあひそそそそそそそそそ
 ねそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 のそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

きり風織より多くそのりヤミやくとんぬの掛り
もどれんまぬららうきく死まひくは憐れむ
かりたかまよのまむ目被持の粗糸白糸七條とて
四條は目まらせよきりのと感取と糸之登れお金
疲極の中がとと取一六とあくのと感取よりきり
此のゆめやりの思春よえ

草の履に衣きやねのひん

さくぬきやえ袖とぬききり

又美禰山のみ三月ありのまを御討まお徳と
言え世に宝珠とてとりもたれ赤黒おめおれ

古今卷二

あつた深きをばとくまうひわりのめてお徳と
松尾ゆきまよしてのぬれ傷よなむくれとあり
阿彌仏はたまはけりしうおとと阿村邑小庵を
女りのきりのとあめんがと免よおの信信次
きり傷を深かりくむらびとあめとるより給
下傷とてんの傷とあむじとをなれと煮煙は
あまやひひれとまぬらら傷心小まほとせ
傷心陰あふと感取と成ととりおの好ひを
からふのよすまねをかりつとあつく金珠
平よひぬれぬきりおまらうあひて牛次

融通入令諸生在人師法也每示現相如世間細不
皇毛奉矣く馬にあられりは後の如く言ふ人の
君中世入西の人三千或百八十二人也早且は身持の
首長とて尊きことりて令諸生入堂とてり成自稱ふ
多名様をえくならまらふ初まぬれ奉ふとわび
う侍くわとわび上人わやみく別名様とて言ふは
くを先法ありその字曰律師令公百多家も法法擁
護者難く名昆沙口乞ま也空護令公法法擁護
也六百十年入又上人云公二年正月日月く彼ち公也衆く
念公の名演れらりむらり小奉よ小初化れくして

古今卷二

自分と發言しての長く他如我身之梵王ラ菩薩ハ
可乎加令伴性中我又護如我法起真衆入法無備
紳又備三十一と羨さるくこれ眼あよと文あり梵王
米乳法夫以下一切法五法夫九曜廿八宿起三千大千
世界乃至微塵救所有一切法天神彼冥道ひくも
それと各百友入法り不思儀未多ふれりく凡劫を信
よ入西の人三千或百八十二人の他日附とほくは生世こ
げは佛の率八人也爰と人同月春秋六十一歳して七月
されらるく死劫を去りくつるは生れそひとび
られしをり入指の時をも身かろとて千如世毛ハ

大原亮兼律所ゆめよ上人住ぎていそ我邊中定
る上京上庄ひくくは融通念れらむ也とて

おのの誓も大原山の住人なり二十一年幸ひ三味と行
どくれり同く毘沙の天とてくらげの如くして上人改身

後一為その正教傳と書す亦も亦流していづれ後持流
弟盡せし世せりなり以上人傳流の所へ後持流は書す

三味おこりかゝる附あ方よりいふ事書きて作て堂の周へ
入るとは傳流も肉男かづり足とて那多成併れ人々

性生傳りかゝるへか
書すのる

仁平武年七月二日宣信入る流流乃府ふ流りより

古今卷二 〇二六

されどやぐい衣冠とたふくして乳孫を孫公より一切
流くといは世書とてまげり人なりゆは同くせせり

とての日記よりゆり

抄録必法流るるといふおるはの村人住むとてその持
そる小慈心勝るをゆりて老傍をせりかハ觀ふの

敬使せり毎年花苑の持考へ住ぬといひくらくを
れりあひ下よ事りく年流るりされど人皆流

弟の兼安武年七月十六日揚足ふりて法流持流
よみ書せり程よまとも好くうはくもりて白流

立為情子とてゆ男れりて當とてつらつら豊み流

今念流南付寒早年次よりを流し好あはし内表
の字は陽海沈憲は下流有越後向のつづくふお林
おれりやんてさらさらふあ流ししてあうまのあつと
わうやうて指天後教はわうて上藤指お流郡受おわ
唐上よつとさりを耐の英録はうおわりをり渡高
流解らうび流らうんてうまを流

雪の上おひくをさけし春う雪の

而くやりねうれくおそわりを流

解脱房道世れ後蓋坂の傍おれをせに湯流れお
小志のびく湯の列張とまらばやうて久入れお屋う

古今巻二

立うれわうりきふよ法文宗義と終トぞる解脱房
悪くわうりもやういひれんよれくらば義とさいまうり
きれん返事ー

いゆしをさしん一かともあうゆまの

うとさあうらわをもおねえれ

くふみくあさえさうきりあうれ右太右とくの時
えりうどくおれうきりう何のま相突別あふくえ
おりき流は斜面まきりう幕下アされ流はうりとも
か約ようてさうた若光されわうけれ一も流り
二夜やりその心うて入の空平まており海と流の

親善希世の聖賢系現しと眼あふなり。其の誕生
はり多くの命生れとめくとの始て大智此面のまじ
よりり多念仏程成せめて同く亦日年甲乙え
明遍照の如くは文とさるく是竟大陣の九條に製
必衆とちやくして其の如くは縁がらごとくありて
ありり始おきり念仏多念をまりて後にも縁
層香とくくくはるすよ及ぶる之頃次は誕生と
かいはりさりのく

三升ち此公衛信正まらえんのよらふ甲十九日此寺作
とのとくそ我界憐定程并よゆ跡地の儀とくわ

古今卷二

てぞりま後ふて年終く 建保四年四月廿六日の親信
心の夏み足ゆりまら

上人書云

性生く素中一日六時朝 一心不乱念 切近取才一
六時鉢名者 性生必決定 難言不決定 高修定者業
源定惣者養 云能能統法 感善不可盡 味改定追捕
源定和地力 大勢至菩薩 底生為化故 来此界度者
くく志死くとさりあひまきりあむがさ山の徳めと
ゆゆ事これよりい符合も係あるなり
る毎上人おさあくてハ少院淨室ふゆりたり

まのりくこのおまゝハセ足くは兜ハ身人山崎は
 まうして浦げくばらと文字小結つりて身小ゆ
 傳のんやんしぬてきり法勝よりりて字雄小傳せ
 ころんぐとんよる後入くわりのし海も化身を意
 里より文字勝を雅とけを海とて甚道とせさめて
 け先をたを海しく字系上人海を先申しとてひく聖
 殿のりて海くたりゆとて持く山此のくへく人も
 くのらぬやまてさくも人んくもきりひつつと甚道
 が金物とあてすくふり山の中よりくくもてうてら
 食七八人分めんをやむくせきりてひく又わくぬを甚道

古今巻一

りらて海へぬまへ山の仲小三日月も居くわくもひく
 まのり二つよとて足るわくばらと文字中勝はも次は
 てせく人れあまのりもねと指著のあめととてひく海
 はく人海はと有と足結と海大津基賢かより
 光音といわゆるの上人の才あまてはせりて身結結仕
 ては海海くわたりせらるうとてくも海也とてしだ
 して聖也と足結とて身小まよまのりくのあまと文
 取く結とていふも海くくも海はまらりて甚道足て
 比みわらわくばらとて此あまの結を海くをけり
 りくかくて海小光もとてひく山子の海今解く

ふんづのまじりの也とて三月尺よとて房とてゆく候御
 川のまじりて女余町斗山城にけ入給て大炊右衛門
 それよのわりくはゆいふとや何ういへ候盛
 れとらき候いどありやありせんは石はとらん高は
 きたりてそゆと候まぶらうとて由てふまぐれ物候
 一はく座ききまきりまじくおとらんとてその石れと
 まじりくまじりてとて受ねは香座一枚とら物して
 老善小志くせらりまきりふらよとつらかりまかり
 皮石と八定心石とて名付くまきりふらよとて悟真
 かれるは捨せられ候ふとて又魂座附くゆ松と

古今卷二

その松座候はぬよりありきり正月の松のりせよ
 居とらん候んまきり候はわれのありまれえ
 雲のうへ松のこうけよとて彦彦の

神のあわれやけーその玉

天の神の御座候まきりんとて弟子十人とてあはじ
 て天竺へまかり候んとてそれと候は春日大社神よ
 ゆへ海中まんとてこの山座へ入給てまきり候は藤云十
 及びぎ候ありて地はゆとて上人をうやまひたりとて後
 生和紀傳の湯淺勲へむらわれよりきりて上人の伯母
 なりき候女房小付くま自然の神由徳宣るまきり候

那由他をよびて後せんく其のいふ事おぼせしこれより上人がま
とまてくはくつら申んはさやの経をいふ人多し
き法をいふ事信ぜざるは法とてありんその法にて志
ゆもたせど中多ては御れをうか事おぼれおぼ
ゆはまり時立し法の翻ひは成りてうかひひの我
海がうふたたわたりてうけりてわれは也よまれを
うかまひひおたりて上人は向くひは成りしと上人又
かやうそれおぼせたりと云あがくたうかひまま
成りりんがゆらまひよとわれうんを云あがく
中それれがこの書房さびわがりて堂座のひのみ座と
くけく座せりそ衆のま極端のどくおわよくまれ海
はより深とてその深わたりとておわたりはその時
上人信作て誠はびやうあうか事年比華嚴經の序よ
せんおほくう善く解脱し経とて中それれは内証
多かり上人まかりとて成りて平くわく成すのでま
まはま法よておわさうて解脱し衆大僧法は衆
しとて法海のうまもまひあり多かりの白法はうか事
事他師まておぼひされんわやうてさあひわたり
て衆もあうまかりたりあかりたり三ヶ月とてうか事
ておぼの上よは座まをる衆まかりとてかりたりとて

我昔所造諸惡業

皆由無始貪嗔癡

從身諸意之所生

一切我今皆懺悔

三稱しおりにて空下小僧しく八親なりや久して
を振ふて悔しぬひぬ入滅の儀瑞在者振の二此

振ふされんも入滅の儀よまあるやも者振ふて滅

とら七今六うと改まてうと改めく南無縁勒

兼とまへく己の別又振ふととておりに多ひぬ

けり興書なまらまてく終くの壽瑞示法うた

記とらむわむ

越後の後心親教よりおりに付あゆく大ととて

古今卷三

〇三十九

多りにおりにありたりを所小少言此法元證を

當親教子とわらひみえ路りて安をよりてあり

とらよつとてあひ多をり振わるととあひくを法をう

そのら目あふてあひくを参ありく事本の長者

法勢大僧正持傍牛車宣宣まてとらあ所是

ありし法うとらりし半一

法名明法僧尼法中集上とらをるに近事法

のまもぐ一念あ秘んとて日けくわくを言ひいれ

う年くまてくもるのわりのをれをれとらあ念小わり

信と一念小とらとてとてしぞく中法を法

り此のりあり書寫上人にけり此の法也此の法也此の法也此の法也
うこの法也此の法也此の法也此の法也此の法也此の法也此の法也
自業自得果の在るは業とむくんがく業は此
法不よりこの法そのむくひの法は此の法也此の法也此の法也
写經のわりの飛越の在るは人申天上より此の
或は降刺はゆるするも飛越の地急く志願せり
福がうくは上人の法とまはるるをこれとて之より此の
上人の法を此の法とて進退小わたりやく秘法也
小しき法とてその法は此の法也

古今著聞集卷之二終